

苫小牧 CCS 実証試験

～累計 CO₂ 圧入量 30 万トンを達成、現在モニタリングを継続中。

今後のカーボンリサイクル実証事業の展開に期待～

港湾・企業推進課 ☎(32)6438

苫小牧 CCS 実証試験では、令和元年 11 月 22 日に累計二酸化炭素 (CO₂) 圧入量 30 万トンを達成したため、同日に圧入を停止しました。現在はモニタリングを継続中で、今後は、国により実証試験設備を活用し、分離・回収した CO₂ からメタノールを合成する「カーボンリサイクル実証事業」が予定されています。

CCS

発電所や工場などから排出される CO₂ を含んだガスから、CO₂ を分離・回収して地中に送り込み、地下深くの安定した地層の中に貯めることで、大気中に放出される CO₂ を減らす技術です。

カーボンリサイクル

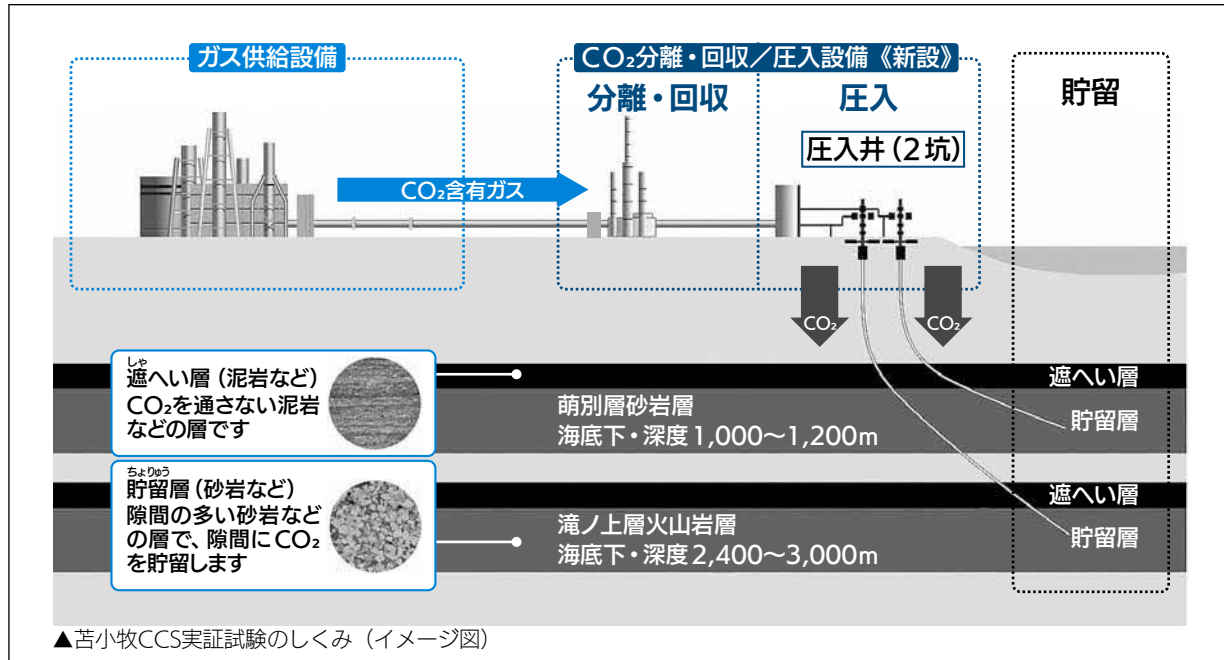
CO₂ を資源として、化学品や燃料、鉱物などの製品に再利用することで、大気中に放出される CO₂ を削減する新たな温暖化対策の取り組みです。



◀日本 CCS 調査(株)
ホームページ



苫小牧 CCS 実証試験センター全景 (真砂町)



「CCS」の
よくある質問に
お答えします

Q 貯留された CO₂ はどうなるのでしょうか？

貯留層に閉じ込められた CO₂ は、貯留層の隙間にある地層水 (飲料に適さない塩水) を押しつけて徐々にその貯留層内に広がっていきますが、上部には遮へい層があるため、長期間にわたり安定して貯留層内に閉じ込めることができます。長い年月を経過した CO₂ は、地層水に溶解し、さらには周辺の岩石と反応して鉱物化し、安定的に閉じ込めることができると考えられています。